

1. 日曜日は貴方と

ねえちょっと！ ちょっと待ってよ
次の日曜はもう 決めたじゃないの
夏の海辺を ドライブデート
貴方が免許取った記念にってさ

なのに貴方はまためんどくさがつて
家で過ごそうと企んでる
こないだの花火も
雨でダメになったとこじゃないの

あぁっもうっ ちょっと待ってよ
いつもそうやって ベッドまで連れ込む
「ごまかさないで！」 そう言ってる
なのにね体は もう貴方の物よ
私の負けです

あぁ今日も 貴方は寝坊
次の日曜こそ！ 約束したじゃない
新しく出来た映画館にも
行かないまんまでもう
1年経っちゃった

なのに貴方はまためんどくさがつて
家で過ごそうと企んでる
「おなかが痛いから…」と
見え透いた嘘をつきはじめるの

あぁっもうっ ちょっと待ってよ
いつもそうやって ベッドまで連れ込む
「ごまかさないで！」 そう言ってる
なのにね体は もう貴方の物よ
私の負けです

なのに貴方はまためんどくさがつて
家で過ごそうと企んでる
最初の頃はもっと
どこにでも連れてってくれた…

あぁっもうっ ちょっと待ってよ
いつもそうやって ベッドまで連れ込む
「あぁもういっかな！」

抱きしめられたら どうでもよくなった
結局日曜日は
私の負けです

2. 藤の花

春来れば 藤花盛る逢坂で
あなたとわたし
この世では ふたたびとない運命を
感じ取った

夕暮れが瞬間をさらえど
今も未だ感じている
あなたとは 結ばれるため生まれたと
信じていた

ゆるされない ゆるされない
これが世に知らるるは
命の終わり

ゆるされない ゆるされない
あの花の下忍びに
あなたと会う

月明かり 闇夜の中のふたりみを
照らさぬよう
藤の花 与うるものは
口づけの味

ゆるされない ゆるされない
この恋を暴かんと
星たちが追う

ゆるされたい ゆるされたい
引き裂かれし二人の果ては
悲しきか

あの日の風 あの日の匂い
紫立つ景色の中に
わたしは見つけた
「明くる年も 共に見よう」と
花はもう身を尽くす

囚われた あなたのその白き肌が
赤く染まる
貫くは 二人には重すぎた
うつつのゆめ

倒れゆく その体に寄り添うのは
わたしの声
藤の花 奪いしものは
ふたりのいのち

3. 空っぽなライブハウス
ここは田舎のライブハウス
1人のために歌います
1番前で見てる人
見る気はないと眠ってる
1番後ろで見てる人
お顔が光って浮いている
「お前の歌よりおもろいもんが
ここにはあるんや」と

空っぽなライブハウス
赤青白と照らすライト
すぐになる！って いっぱいだ！って
夢を抱いている

「父さん僕は歌い手さ！」
ギターを片手にこう言った
「つまらん小言は慎めよ
そろそろ今を見つめろ」と

最近流行のミュージシャン
客席から 声がして
「次は僕が歌います！」って
客は帰ってゆく

空っぽなライブハウス
赤青白と照らすライト
すぐになる！って いっぱいだ！って
夢を描いている

今日も客は1人だけ
それも知らないお客さん
それでも僕は歌うのさ
何か届く 信じてる

機材使用費 チケットノルマ
今月も 無一文さ
大丈夫って言い聞かせて
笑顔作っている

空っぽなライブハウス
赤青白と照らすライト
すぐになる！って いっぱいだ！って
夢を抱いている

空っぽなライブハウス
スタッフだけがみつめている
すぐになる！って いっぱいだ！って
夢を描いている

車洗車のアルバイト
一日それで終わってく
日に日に上手くなっているが
比べて夢は遠くなる

「僕は他とは違うのさ
才能だって持っている…」
揺るがぬ自信 いつのまにか
不安でつぶれてる

空っぽなライブハウス
赤青白と照らすライト
すぐになる！って いっぱいだ！って
夢を抱いている

空っぽなライブハウス
スタッフだけがみつめている
すぐになる！って いっぱいだ！って
夢を描いている

空っぽなライブハウス

いつかなる！って いっぱいだ！って
夢を描いている
そう 夢はすぐそこに
でも今夜も
夢のまま

4.夢を見ていたい
ほんとはずっと
前から知ってた
気づかないふりでは
もう誤魔化せないわ
心に開いてた 小さな穴は
塞げないほどに
大きくなった

あなたとあたしの
終わりが見えたあの日
大事なことばかり
こんなに違ってしまう

あなたの家族や
あたしの家族も
見つめてる未来も
過ごしてきた過去も

愛しているのに
感じているのに
それだけじゃもう
この先へは進めない

夢を見ていたい
せめてその時までは
あなたの口からこぼれる
さよならまで

楽しそうに話す
ふたりのこれからのこと
あたしはいつからか
聞いてて辛くなった
周りの何気ない言葉に
胸が痛んだりして

暗闇の中に
沈んでゆく身体

期待してるその笑顔が苦しい
「新しい道 新しい命 それから次は…」
もうあなたは進みたい
あたしは待たせられない

愛しているなら
感じているのなら
何も変わらず
ずっとこのままでいいのに

夢を見ていたい
せめてその時までは
あたしの口からこぼれる
行かないで

きっとあなたは
あたしのことなんて忘れて
違う誰かとひとつになって
進んでゆく

どうして 好きなのに
どうして このままじゃだめなの？
これ以上
何もいらぬのに

愛しているから
感じているから
あなたの求める幸せ
あたしじゃあげられない

夢を見ていたい
せめてその時までは
あたしの口からこぼれる
さよならまで

2014.5.16 2nd mini album 『イストワール』

レコーディング・ミックス・マスタリング：森下徹（谷町レコード/谷町 OneDrop）

作詞・作曲・演奏：葉山久瑠実